

磐城平城しろあと公園開園記念 パネルディスカッション

「お城を知れば、まちがもっと好きになる！
一城の魅力を語り、未来のまちづくりを考えるー」

パネリスト	千田嘉博 様	城郭考古学者・名古屋市立大学教授
	柴橋正直 様	岐阜市長
	小宅幸一 様	いわき地域学会
	内田広之 様	いわき市長
コーディネーター	田仲桂 様	いわき市文化財保護審議会 福島県文化振興審議会

司会

それでは定刻となりましたので、パネルディスカッションを始めさせていただきます。

では、ご登壇いただく皆様をご紹介します。先ほどご講演いただきました 千田嘉博様。磐城平藩主であった安藤家と深い関わりのある自治体より岐阜市長、柴橋正直様。いわき地域学会の小宅幸一様そして内田市長です。コーディネーターはいわき市文化財保護審議会・福島県文化振興審議会会員であります田仲桂様です。皆様よろしくお願いいたします。

本日のディスカッションのテーマは「お城を知れば町がもっと好きになる！一城の魅力を語り未来のまちづくりを考えるー」と題し、お話いただきます。

ここからは、コーディネーターの田仲様に進行をお願いします。

それではよろしくお願いいたします。

田仲コーディネーター

改めましてコーディネーターを務めさせていただきます、田仲と申します。本日はたくさんの皆様にお越しいただきましてありがとうございます。千田先生の記念講演 50 分間があっという間に過ぎてしまいましたが、いかがでしたでしょうか。

(会場拍手)

平城は典型的な近世城郭の特徴があるということ、そして家康風の作り方になっているということ、守りが厳重でなかなか簡単には入れない城であったということ、そして VR でより鮮明に平城の様子がよみがえったということ。城下町の事についても触れていただきまして、世界の町屋の普遍性がいわきの本町通りにあるということなど、様々なお話があり大変興味深く引き込まれてしまいました。

さて、ここからは、今ご紹介がありましたとおり、千田先生、岐阜市から柴橋市長がお越しいただいています。そして、いわき地域学会の小宅先生、いわき市の内田市長をお迎えしてのパネルディスカッションでございます。こちらも 50 分間という大変短い時間になっておりますがどうぞお楽しみください。早速始めてまいりましょう。

本日、磐城平城の本丸御殿跡が、磐城平城しろあと公園としてオープンいたしました。公園が整備され

るまで、少し時間がかかったという風に記憶しております。内田市長、その辺りについて、これまでどういう経過をたどって整備をされてきたのか教えていただけますでしょうか。

磐城平城しろあと公園について



①

主な経過

平成29年度 国から『中心市街地活性化広場公園整備事業』の採択を受け、用地取得・基本設計を開始。

令和元年度 公園の実施設計を開始。10月に『（仮称）磐城平城・城跡公園基本計画』を公表。

令和2年度 埋蔵文化財の発掘調査を実施。『磐城平城本丸御殿』の礎石などの遺構が出土。

令和4年度 5月に『磐城平城本丸跡』の史跡として市の文化財の指定を受ける。
6月に基本計画の一部改正。園内の整備、体験学習施設の建物工事を開始。

令和5年度 体験学習施設の建物が完成。

令和6年度 体験学習施設内の展示物が完成。

令和7年度 3月に園内整備完成。

令和8年 **4月11日 OPEN!!**

P2

内田市長

スライド(①)に細かいことは出ておりますが、簡潔に説明いたしますと、磐城平城しろあと公園は、9年かけて整備されております。中心市街地の活性化計画は、国から認定いただき、補助金をもいただきながら整備を進め、いわきの駅の周りがいづが変わってきております。

ホテルが建ち、商業施設のエスパルができました。また、松村病院も移転の計画もあり、長年かけてまちづくりが進んでおります。その完成形として、やはりお城を中心に盛り上げていこうということで、今日オープンさせていただいております。

「磐城平城しろあと公園」については、「令和2年度」の記載にあるとおり、埋蔵文化財の調査で遺構が出土し、調査に少し時間がかかり計画が後ろ倒しになったことがございます。

磐城平城しろあと公園について



②

事業概要

「磐城平城しろあと公園」は、「いわき市中心市街地活性化基本計画」における主要事業の一つとして、平成29年度より事業に着手し、「いわきを象徴する場所」、「歴史を語り継ぐ場所」、「いつでも誰でも楽しめる場所」を基本方針に掲げ、整備を進めてきました。

【公園名】磐城平城しろあと公園

【所在地】いわき市平字旧城跡地内

【公園種別】近隣公園

【面積】約1.5ha

【事業期間】平成29年度から令和7年度

【事業費】約15億円



P3

旧城跡という住所の 1.5 ヘクタール 15 億円かけて整備が進められました。

民間のクラウドファンディングや今は色々な手法がありますので、税金を使ってそれをやりますとなれば、また色んなハレーションがありますので、民間の募金の活用など、そんなことを今日考えながらお話を聞いておりました。



③



體驗學習施設全景



憩いの広場展望デッキ



芝生広場



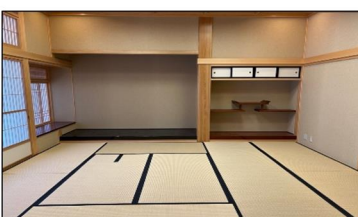
アプローチ階段

PA

左側の公園の全体図の中央のところが本丸御殿です。その左側には体験学習施設がございます。さらに図の右下には、展望デッキがございます。中央下のアプローチ階段は、高い所からいわきの平の街を見渡すことができます。



④



文化體驗室



情報発信室 P5



展示交流室

3

今日、私も午前中に大名家である安藤家の御家流の作法でお茶をいただきました。

(④の)次のスライドには体験施設のより詳細な図面もございます。色々な学びの場所というふうになっております。ぜひ、公園を散策していただきながら、今本当、春で桜も咲いており、非常に気持ちよかったです。

今日午前中気持ちよかったのですけれども、こうして学ぶような施設もございますので、このシンポジウムに参加されている皆様もぜひお立ち寄りいただければと思います。

田仲コーディネーター

ありがとうございます。では千田先生、今日実際に公園をご覧になられていかがでしたでしょうか。

千田先生

いや、いいものができましたね。

この中で先ほどもご紹介させていただきましたように、まずは VR を作っていただきまして、現在失われたところを含めて、磐城平城の全体像を掴んでいただけるようになりました。

それから、非常に精密な模型を施設の展示交流室の中に作っていただいておりますので、そういった点においても、お城の様子を、まさに自分のものとして体感できます。そしてもう1つがこれ、21 世紀ならではのですね。QR コードで野外のところでもその作った VR を活用して、現地に立って当時の様子をスマホの中で体感できるということで、全く新しい歴史の楽しみ方というのを実現していただいたという点でも、いわき市は画期的だというふうに思います。

田仲コーディネーター

ありがとうございます。千田先生には後ほど色々伺ってまいりたいと思います。

次に小宅先生。小宅先生は、2018 年度から3か年計画で実施されておりました、磐城平城文献等調査会議の委員をされていらっしゃいました。調査担当のお立場として、そして、もちろんいわき市民の立場として、本日、磐城平城しろあと公園をご覧になっていかがでしたでしょうか。

あと、平城の歴史のことについても、ぜひ教えていただけますでしょうか。

小宅氏

はい。今、千田先生が全て言ってしまったので私の出番がもうありません。田仲さんがちょっと振ってくれたので、ありがたいなと思いました。少し平城の歴史として、千田先生のお話のフォローをしたいと思います。

平城は千田先生のお話にありましたように、江戸時代の最初から造られて、最初は 10 万石でした。その後、加増されて 12 万石。12 万石にふさわしいお城でしたが、譜代大名、徳川家は、その意向によって土地を削減したり、増やしたり自由にできてしまう立場なのですね。薩摩藩とかそういったところはもう動かさせません。しかし、譜代大名が動かせるために天領になってしまったということで、最後は坂下門外の変で3万石にまで減らされました。でも、磐城平藩では、人を減らさないで家臣団が石高を減らして幕末まで生きながらえました。その後、戊辰戦争で不幸にも奥羽越列藩同盟になり、最後は城を燃やさざるを得ないという状況になり、明治を迎えるわけです。

その後の話はまたの機会にしたいと思います。

田仲コーディネーター

ありがとうございます。

岐阜市の柴橋市長にお伺いいたします。岐阜市には大変著名なお城がございます。
磐城平城の本丸跡地というのは活用がようやくスタートしたばかりでございます。
ご感想または、メッセージをお願いできますでしょうか。

柴橋市長

岐阜市長の柴橋と申します。

まずは今日城跡の素敵な公園の開園にあたりまして、心からお祝い申し上げたいと思います。私ども中核市同士ということで、いつも内田市長とは、親しく連携させていただいております。それぞれの都市というのは、圧倒的に近世城郭、当時の幕藩体制下でできた都市が多いです。いわき市も磐城平城のもとで城下が形成されております。私どもの岐阜は、安藤家の加納城と加納藩がありましたが、岐阜市の中心である岐阜城は関ヶ原の前哨戦で落城しております。言わば、中世の戦国期における斎藤道三公の稲葉山城と織田信長公の岐阜城と岐阜城下町ということで町が今日まで繋がっております。そして都市の成り立ちは違いますが、お城があるということで今日の私たちの町に繋がっているという事は共通だと思いますし、さらにお城が私ども、市民にとっての誇りであり、財産でありまして、これはまさにあのシビックプライドにも大いにつながるものです。今回、こうした整備が行われたということも、またいわきの市民の皆様にとって、貴重な節目の時というふうに感じております。

先ほど千田先生のお話もあり、VRでも出ておりましたが、いわゆるあの石垣も十分に残っているということで、私は先ほどの式典が終わってから石垣を見に行きました。大変ドキドキわくわくする石垣であり、こういったものも含めて、これからさらに、皆様方が守り、さらには今後の将来的な整備も含め、取り組んでいかれると、さらにお城と歴史まちづくりというのは大いに進んでいくというふうに思います。今後の末長い皆様の取り組みを大変期待したいというふうに思っております。

田仲コーディネーター

ありがとうございます。

では続きまして、岐阜城と岐阜公園について伺ってまいりたいと思います。

柴橋市長、続きまして、ご説明をお願いできますでしょうか。



岐阜城 岐阜公園 について

2026.4.11

岐阜市長 柴橋 正直

P7

⑤

岐阜市について

⑥



柴橋市長

はい。改めまして、せっかくですので岐阜市のご紹介から手短にしたいと思います(⑤,⑥)。同じ中核都市ということで、岐阜市は今 40 万人弱の人口の自治体でございまして、ありがたいことに、今、人口の社会動態は2か年連続 プラスに転じております。これは本当に嬉しいことです。

また、ちょうどスライド(⑥)の真ん中に記載されていますが、中部圏において、色々な民間の調査がありますが、特に JR の岐阜駅が大変人気がありまして、借りて住みたい街などですね、買って住みたい街ランキングで近年は1位ということで、本当に社会動態がプラスになっているということと、こういったランキングにも現れていると思います。

特色として、喫茶店モーニングについてです。これは岐阜と愛知、お互いに張り合っておりまして、私も、岐阜の喫茶文化が日本一だとテレビなどでも言うておりまして、ただお隣の一宮市では、いや一宮が日本一だというような話ですけれども、お互いに切磋琢磨をしながらまいりました。ただ令和2年度から5年度までの4カ年、実は、家計調査で岐阜市が1位でございました。今3位ですけど、これもインフレによるものです。ということは岐阜市がまだまだ喫茶店モーニングがお値打ちということです。1位は名古屋ですけども、名古屋・東京・岐阜ということで、こういった食文化も息づいているということです。1300年の鵜飼や、岐阜和傘という、加納藩に非常にゆかりがある当時の武士が傘張りをやってこられて、それが息づいています。

それからスライド(⑥)の右下に小さくて可愛い赤いバスがありますが、これは自動運転のバスでございまして、レベル4を目指して、岐阜市内を毎日走っております。

岐阜城について



■概要

- 建仁年間（1201～1204）築城（二階堂行政 築城）
- 標高329mの**金華山山頂**に位置 → 濃尾平野のパノラマ眺望
- 難攻不落 → 「美濃を制する者は天下を制する」

■天下統一の拠点

- 斎藤道三公・織田信長公の居城 → 信長公は1567年-1576年
- 信長公が「**天下布武**」朱印を使用開始 → 本格的に天下統一を志した地

⑦

■Topics→ 日本三大山城夜景



岐阜城



仙台城跡



松山城

2025.12.1に3市で表明。＜要件：著名な城主、夜景として評価できること等＞
城主の気分を感じながら**夜空と街灯りの景観**を楽しめる！ P9



月と岐阜城

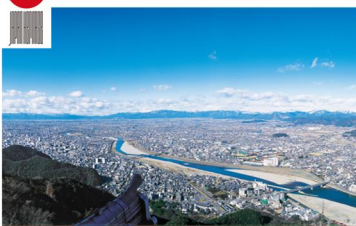
岐阜城(⑦)について改めてご紹介します。二階堂行政は鎌倉殿の13人の中に出てくる御家人ですが、彼が最初に砦のようなものを作ったところから始まりました。金華山という岐阜市のど真ん中に329mの山があるのですが、この山上部には天守があります。先ほどの斎藤道三公の話をしましたけれども、国盗り物語、司馬遼太郎先生の小説が有名になりまして、美濃を制する者は天下を制するというので、私はよくスピーチでこのフレーズを使っております。

織田信長公は、斎藤道三公の時代の稲葉山城をアップデートする形で、岐阜城を築いていたということでございます。

ここでも有名な天下布武という朱印を使い始めました。今、新しい取り組みとして日本三大山城夜景ということを表明しまして、これは、仙台城が伊達政宗公で、松山城が加藤義明公ということであり、この3市で協力して、山城から見る夜景が素敵だということを自主的に名乗ったのですが、このように積極的にそのお城の魅力をPRすることは、大事であると思っております。

岐阜城の歴史・文化

日本遺産「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜（2015.4認定）



戦国時代、**岐阜城**を拠点に天下統一を目指した**織田信長公**。

戦いを進める一方、城内に「**地上の樂園**」と称される宮殿を建設し、軍事施設である城に「魅せる」という独創性を加え、城下一帯を最高の**おもてなし空間**としてまとめあげる。

景観を活かした眺望や**長良川**での**鵜飼観覧**による接待。

冷徹なイメージを覆すような信長公のおもてなしは、宣教師ルイス・フロイスら世界の賓客をも**魅了**した。

信長公が形作った**城・町・川文化**は受け継がれ、現在の岐阜の町に息づいている。

⑧

■Topics→ 文化庁より「重点支援地域」に認定（2025.2）

優れた取組実績・計画内容で、他の**モデルとなる地域**であると評価



山麓居館復元イメージCG



鵜飼で捕れた鮎



船遊びが体験できるツアーの様子



川原町のまち並み

次のページです(⑧)。私の前の市長の時代に、信長公の戦国城下町ということで、日本遺産に第1号として認定していただきました。そのことは信長公がよく宣教師のルイス・フロイスの日本史などに記述されておりますが、山麓で客人をもてなしていたとか、鵜飼で武田信玄公の家臣をもてなしたなど、こうい

た歴史がございました。信長公というのは天下を目指して非常に厳しいようなイメージがありますが、結構自分で、もてなしたお客様にお菓子を運んだという、色々な人間らしい部分もあったということです、積極的にPRをさせていただいているところです。

⑨

岐阜城の歴史・文化

■ 史跡岐阜城跡山上部発掘調査

→ 道三公、信長公時代の城づくりの実態に迫る



続いて岐阜城ですけど(⑨)、私が就任してから山上部の発掘調査をして毎年度新しい事実が分かってきておりますので、ちょっとそのことを皆様にご報告をしたいと思えます。

岐阜城の天守をご覧くださいますと、これは実は、関ヶ原の戦いで落城しており、江戸時代ここには天守台しかありませんでした。

明治になって当時の方が、天守を建てました。ところが、天守台の石垣をなぜか、積み直してしまったということで、いわば信長公の時代の石垣はないのではないかと、言えぱぐちゃぐちゃになっているのではないかというふうに思っていたのですが、発掘調査をしたところ、例えばあの北西角の石垣が出てきたとか戦国時代の石垣が下の方にはちゃんと残っていて、見ると明らかに理解できます。土で埋もれているものもありまして、掘ったら2段目が出てきたということもありました。さらに、天守台の本来のサイズも分かりました。石垣が残っているという事は分かっております。4段目もあるのは分かっています、昨年度3段目を掘ったら3段目も出てきたということで高い石垣ではないのですが、下から見上げると、高い石垣のように見える。つまり見せる城を作っていたということです。

右上は稲葉城跡之図です。岐阜市で初詣ナンバーワンの伊奈波神社があるのですが、元々はこの稲葉山(金華山)に神社がありまして、そこに江戸時代に現地を調査した絵図が残されておりました。

ここに石垣の位置やサイズが全部書いてあり、発掘したところ通路のようになっているところへも石垣がありますし、また、そこからの円礫やかかわらけが出てまいりましたので、円礫があったということは、庭のようなものがあつたのではないかと、ですとか、かわらけということは宴会をする供応施設の建物があつたのではないかと、そのようなことを推測しております。岐阜城の山上部というのは、天守がポツンとあるのではなく、色々な石垣・建物があつたのではないかなと思っているということです。

■ 岐阜城楽市（岐阜公園Park-PFI）

⑩



岐阜市へお越しの際はぜひ、**岐阜城楽市**へ

P3

見ていただきます(⑩)と現在のおもてなしということで、山麓の史跡のエリアではないところに岐阜城楽市という、おもてなしの施設を民間に整備をしていただきました。おかげさまで整備をする前と後ではお客様が、当然ですが増えております。県外からも多くのお客様にお越しいただいて、来園者数も滞在時間も伸びております。このように、史跡の本来の本物をしっかりと見せるということと、便益施設として観光客の皆様に楽しんでいただくところも併せて整備しているのが、岐阜城でございます。

田仲コーディネーター

はい、ありがとうございます。

少し、会場の皆様に聞いてみたいと思います。岐阜城に行かれたことがあるという方？

(会場挙手)

結構いらっしゃいますね。ありがとうございます。結構いらっしゃいました。

会場の後ろの方にいらっしゃる方からも手が挙がっております。実は私も先月行ってまいりまして、山頂まで、登城しました。ロープウェイがあるのですが、私はどうしても歩いてみたいということで、当時の人の気持ちになりたいと思い歩いてみたのですが、1時間かかりました。さすが、難攻不落のお城でございました。

行かれたことない方は是非、岐阜城、岐阜公園に行かれてみてください。

あと、岐阜城の楽市。私は、駐車場が10時に開くと聞いていたので行ったのですが、結局のところ、10時から16時までありました。この付近、色々なお店が入っておりまして、お土産も買えますし、非常に楽しませていただきました。

それでは、内田市長にお伺いします。岐阜城の岐阜市というように、岐阜城の調査が保存研究活用の取り組みというのは本市にとって非常に参考になるものと思います。そのあたりいかがでしょうか。

内田市長

柴橋市長の話を聞き、ハードソフト両面に渡り本当に素晴らしい発信力だということを改めて感じました。しかし、磐城平城に関しては、これからというところであり、今日の千田先生の講演からいろいろ教えていただいた通り、今まで発信しきれていなかった素晴らしいところ、伝えるべきところがいっぱいあります。

今、本市は安藤信正公の NHK の大河ドラマ化を目指して頑張っております。もしかすると知名度という部分ではまだまだこれからかとは思いますが、安藤家の繋がりといいものもあります。ぜひ、岐阜市さんの取り組みを参考にさせていただいて、いわき市も岐阜市に追いつき、そして負けられないようにしたいと考えております。そして同じ中核市であります。切磋琢磨して、磐城平城を拠点としたまちづくりというのを進めていきたいと思っております。

市長会の際に岐阜市にお邪魔させていただき、岐阜城を見学させていただいたり、鶺鴒いも体験させていただいたりしました。お城見学やそうした自然体験もしながら、また、歴史の面白いエピソードを感じながら、観光をさせていただいた記憶がございます。

いわきはまだまだこれからだと思いますので、2031 年安藤信正公の大河ドラマ化を目指して、しっかり頑張っていきたいと思っております。

今後も柴橋市長には色々なアドバイスをいただきながら、いわき市の城の魅力の発信、そしてまちづくりのために頑張っていきたいということを改めて決意をした次第でございます。

田仲コーディネーター

はい ありがとうございます。

では改めて今、内田市長の方からも岐阜市といわき市の繋がりといいことでお話がちらっと触れられました。実はあるのです。繋がりが。

1つだけじゃなくて2つぐらい、繋がりがありまして、内田市長からご説明いただけますでしょうか。



内田市長

次のスライド(⑪)にも関連してくるのですが、磐城平城の城主の変遷でございます。岐阜市さんとの繋がりは、鳥居家、内藤家、井上家、安藤家と続いていく中で一番右下に記載の、安藤氏が岐阜の美濃の国の加納藩から来ておりまして、初代の信成藩主は、現在の岐阜市から来られているという御縁がございます。幕府の中でも非常に格が高い藩主であり、最初の鳥居家以降は、関ヶ原の合戦で、鳥居忠政氏が磐城平藩の初代藩主として江戸幕府の最初を務めましたが、その父である鳥居元忠氏が関ヶ原の合戦の前哨戦、伏見城の戦いで非常に活躍され、矢作藩から昇格して磐城平藩に入ってきております。

そして2代目の内藤氏というのは非常に長く、120年ほど続けられたのですが、小川江筋や田畑の整備、今のいわき市内の広い様々な田畑、農地や道路の区画などのベースを作られた方です。

3代目の井上氏は、10 年弱ほどと非常に短期間でありました。その後、大阪城代、大阪城のトップになっておられるのですが、そこも江戸幕府の中では出世コースだったそうです。そこも、存任が9～10 年ほどと短期間であり、もしかすると、今で言う全国的な人事異動の中でも調整のような形で磐城平藩におられたのかもしれませんが。その後の幕末までおられた安藤公が 120 年ほどで、その5代藩主の信正公が当時老中、今で言う内閣総理大臣の格であります。初代の加納藩から来られた信成氏も、老中ということで内閣総理大臣のようなポストでやられていたということです。その中で、岐阜市との繋がりがあるのは、岐阜から来られた安藤公であります。美濃の国の加納藩から来られたという繋がりで、今回岐阜市長にも来ていただいているというような経緯です。

これまで、実は磐城平藩の繋がりは、内藤公ゆかりの宮崎県の延岡市です。内藤氏の時代、磐城平藩では、色々な土一揆などが続いており、その責任を取らされた形で延岡に移封になっています。また、その前の時代になるのですが、岩城貞隆氏という方がおられて、関ヶ原の合戦で東軍の味方をしなかったことで、由利本荘に移封になっています。これまでのそうした経緯から由利本荘市や延岡市との交流がありましたが、今回は、この磐城平城しろあと公園のオープンに合わせ、安藤家のお家柄の繋がりで初めて岐阜市長にお越しいただきました。

田仲コーディネーター

はい、ありがとうございます。

ありがとうございます。そうなのです。平藩主の安藤家はですね、美濃国加納藩は岐阜市ですね。磐城に国替えになってきまして、中山道をトコトコ歩いていわきまでやってきた歴史があります。小宅先生、何か補足がありましたら、是非教えていただけますでしょうか。



安藤信正について



⑫



松ヶ岡公園（安藤信正像）

P6

小宅氏

安藤信正公。皆様、松ヶ岡公園(⑫)にいったことは、ありますよね。

安藤信正公の像がなぜ本丸あたりの旧城跡になくて、松ヶ岡公園にあるのでしょうか。

みなさん、どうですか、わかる方いらっしゃいますか？

ちょっと長くなりますが、先ほど戊辰戦争のお話をしまして、負けてしまったというところなんです。磐城平藩、磐城三藩は奥羽列藩同盟に入って、新政府軍に負けてしまった。その後、このいわき全体を見ますと新政府に味方した藩があるのですが、どこだと思いませんか？

笠間藩の神谷陣屋。飛び地がありますね。あそこが新政府軍なのです。戊辰戦争が終わった後、皆様どのように考えていたかということですよ。というのは、その後、お城というのは権力の象徴ですから、あそこをメインにして領民を抑えるというのが鉄則です。

明治時代になって、笠間藩の神谷陣屋には今で言う平六小と、神谷村役場ができました。ところが、磐城平城の跡、湯長谷藩、それから泉藩。あそこにはそのような権力の象徴あとは学問の象徴の小学校、『学制』というのが明治5年にできまして、そのところには、建てられていないのです。つまり、そこは権力の象徴となてはいけな場なのです。ですから今でこそ、泉藩ではコンピューターカレッジと市民サービスセンター、それから湯長谷藩では、磐崎中学校が建っておりますが、あれは戦後の話です。

戦前はいわゆる同盟は権力を持てはいけなのです。これは私が見てきたわけでもないですし、文献に書いてあるわけでもないのですけども、であれば一番近い松ヶ岡公園を整備した、明治時代末期に整備したので、その後、では一番近い松ヶ岡公園に安藤像を建てようとなったのが大正時代でした。

しかしその後、戦後を迎え、ようやく城跡の整備をしようかということで2回ほど取り組みがありました。

昭和30年と昭和39年です。昭和30年よりも39年の方は、途中まで工事をやったのですが、中断してしまいました。その中断のトラウマが残っちゃうのです。そして、時間だけが経過し、他の城下町ですとか、城跡は整備されているにもかかわらず、磐城平城の場合は、そのようなトラウマがあったことで、150年ほどの空白ができ、ようやく今整備されたということになっております。

その整備のところにはみんな色々な思いがあて、やはり磐城平城は必要だということになって、磐城平城が今から9年前にようやくとりつた。それまではずっと空白ではなくて、色々な思いがあったという歴史のひだを皆様、今日は感じ取っていただければと思います。

安藤信正公の功績って言うのですかね、これは皆様あの公武合体、和宮ありますね。

それから、外国との色々な取引・条約のほか、それから色々なことやったのですが、一番私が、安藤信正公がやって素晴らしいなと思ったことは、使節団を出したこと。条約の時は、みな使節団を出しますけれども、その後は学問を学ぶためや、技術を学ぶために行かせております。30年間もの間です。その中の一人が西洋事情を表した福沢諭吉です。そのような若者をどうやって新しい時代の中に溶け込ませていけるかと、こういうことを考えたことによって安藤信正公の功績が新しい視点で見ることができると、そのようには思っております。

田仲コーディネーター

平城が長らく整備されていなかった。トラウマの期間があり、ただ市民の思いがこの度、通じて、磐城平城しろあと公園がオープンしたということになっております。

ぜひ、これから皆様と一緒に盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひ楽しんでいきましょう。ありがとうございます。

次に柴橋市長にお伺いします。岐阜市内にも安藤家に関する文化財が色々残っているかと思うのですが、教えてくださいませんか。

柴橋市長

はい。加納城と中山道をちょっと話したいと思いますが、そもそも加納城ができた時の最初の城主は、徳川家康公の娘婿である奥平信昌公です。長篠の戦いの長篠城の奥平家でございます。奥様が亀姫様という長女で、築山殿の娘ですので、色々とてもやんちゃで元気なお姫様だったらしいのですが、そのところから加納城が始まります。先ほどお話があったように、私どもの岐阜というのは、関ヶ原の戦いの西軍で負け組となっています。

ですから、当然岐阜城は使わせてもらえません。以降、入山禁止となりました。そのことで今も金華山

の原生林があり、県庁所在地のど真ん中に素敵な自然が残っております。山上部も一部、色んな施設ができて、壊されたところもありますけども石垣なども埋もれていきました。

私が市長になって発掘調査を始めたわけですが、大きな時代を動かすような戦に勝つか負けるかというものは、その町の歴史に与えるものとして、とても大きな影響力があると、今お話をきて、よく感じる場所です。

その後、安藤家がこの加納城に入城するわけですが、そもそも加納城というのは徳川家康公がここに天下普請で城を築けということで作られた城になりますが、元々中世にはそのすぐ近くに守護であった土岐氏の川手城という守護所がありまして、関連する館もあった場所ですから、何にもなくてということではなくて一定の土地としての可能性というか城を作るには適した土地であったということです。



見ていただく(13)と、一番上の方に金華山の岐阜城があり、その手前には中山道が東西に通っていて、南側に加納城が作られているという位置関係です。

左上の加納城の石垣というのは、結構「野面積み」みたいな感じになっていまして、岐阜城のチャートの石垣を岐阜城が落城した後、こちらに転用したというふうに言われています。加納城の石垣を見ると、岐阜城の石垣も合わせて見るができるという関係です。

安藤信成公が後を継がれてから1年間程度、こちら磐城平藩に転封になったということなのですが、この加納城の写真の右側に、切通陣屋跡という写真があります。これは中山道を右の方、東へもう少し行ったところが切通という地域なのですが、ここがなぜ安藤家とゆかりがあるのかというと、のちに信成公が大変ご活躍をされたということで、我々の美濃の国に1万 8000 石ほど加増されて、磐城平藩の飛び地ができました。

それを治めるために、ここへ切通陣屋を置き、軍奉行や代官を配置して、およそ1万 8000 石ですので、かなり重要な財源になったのではないかと思います。美濃の国は大変豊かでして、だからこそ徳川家康公は国持ち大名を置いたらとんでもないということだと思のですが、私どもも安藤家に貢献することができたと。ということで、石碑のようなものが今も残っているということです。

この地域は名鉄という地元の私鉄があるのですが、名古屋鉄道の鉄道高架化事業を起こしており、今後 2027 年度から一部工事着手するという予定です。そうしますと、境川という川の河川改修や、都市計画道路整備・土地区画整理事業、数多のまちづくりがハード面で進んでいきます。これにあわせて、仮称ですが、加納城と中山道にちなんで「加納・中山道歴史まちづくり構想」という素案を作成しております。今年度は、素案ですが来年度は構想の策定を行う予定です。言わば、地域の皆様が長年、中山道を保存

する会の皆様の活動や加納城を守っていきたいという方の取り組みなど、こういった地域の皆様の思いをこの歴史まちづくりという形で有識者の皆様も含め、色々な意見出していただいて、例えば中山道を歴史街道としてもう一度蘇らせる、ですとか電柱も建て放題になっていますことや、児童公園やテニスコートがあり、今風の使い方になっている部分もありますので、もう1度この加納城というものについて考えたいと思います。岐阜城は今、再整備計画を立てているのですが、加納城も史跡ですので、いい加減なものはありませんけれども、どのように当時を偲んでいくことができるかという議論をまさに今年度からやろうとしております。

今後、いわき市さんと私ども、色々な連携しながら、安藤家が本当にこの繋がりになっていただいて、やっていきたいなというふうに考えています。

田仲コーディネーター

ありがとうございます。

岐阜市といわき市の繋がりの鍵は、やはり平藩主を務めた安藤家ですね。1つは加納藩から磐城平藩への国替え、そして西暦 1803 年に飛び地を与えられたということで、二重の繋がりがあるということを今ご説明いただきました。私事で大変恐縮ですが、加納城も訪れまして、駅から近いですね、歩けない距離ではない…

柴橋市長

歩くと汗だくになるかもしれませんが、歩けないことはないですね。

田仲コーディネーター

いいお散歩コースだなと思いながら、ちょっとテクテク歩いてまいりました。行ったら、ちびっ子たちが元気に走り回っていて、城跡です。

柴橋市長

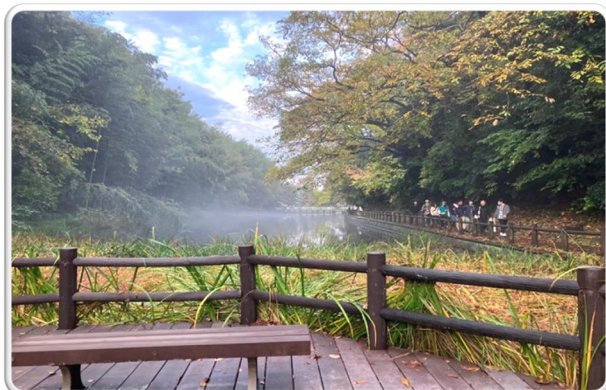
そうです。要するに天守はなかったということです。発掘しても、天守台は出てこないのです。しかし、本丸はしっかり残っていて、その中にあの広場があります。地域の方は、グランドゴルフをします。私の子供も近くの小学校・中学校に通っているのですが、子どもたちの遠足とか遊びの場になっています。あと小学校もまさに加納城の城内にありますので、小学校の中に石垣が残っています。このような加納城の形があります。

田仲コーディネーター

贅沢な場所だな、いいなと思いながら見ておりました。

ありがとうございます。では、次に磐城平城しろあと公園の今後の活用について、また展望を伺ってまいりたいと思います。まず内田市長、今後の磐城平城しろあと公園 一体どうなっていくのでしょうか。

城を活かしたまちづくり



P9

内田市長

はい。飛び地の話は最近知りまして、勉強不足でした。話せば話すほどいろいろなエピソードが出てきて、本当歴史って面白いなと感じました。

私が高校の日本史の授業で坂下門外の変について習った時も、地元の歴史の先生は結構簡単に素通りしていたのですが、そのテーマだけで何時間扱っても、いわき市民にとっては良いエピソードだったのだと思います。今日はお子さんもありますが、そういう教育の中の子どもたち、若い方々にも今後発信をしたいと考えております。そして、写真(⑭)も出ていますが、子どもたちが遊んで走り回ることができるような十分な自然や広さがあります。ぜひ、活用していただきながら、展示スペースでも学びを取ってもらうことを進めていきたいと思っております。

福島デスティネーションキャンペーンが、この4月から始まっております。市外から来られる方もぜひ呼び込みたいと思っております。今年は、いわき市制 60 周年であり、市制 100 周年を見据えた議論も始めております。歴史や文化でさらに盛り上げていかなければいけないと考えております。市制 100 周年を目指したこれからの 40 年間は、そういう年にしていきたいと思っております。

そこで、大河ドラマ化の決定を5年後に目指しており、2031 年の誘致を考えております。そういった活動の先輩となる岐阜市から、また様々なノウハウを伺いながら、発信力を高めていきたいと感じております。

先ほど、小宅先生からも少し信正公の話がございましたが、現代にも通じる歴史上の偉人だと思っております。今のトランプ氏が中東を攻めたり、ロシアがウクライナを攻めたり、利益を誘導するために力づくで相手を倒すようなことが世界的に起きています。国際的に周辺国が止められない情勢がある中で、その当時を振り返ってみると多くの尊王攘夷派がいました。幕府を力づくで潰そう、安藤信正公もそれで水戸浪士に切られたということがありました。

また、外国の夷敵を討つということで、侍の横を横切った外国人を切るというような事件がたくさんありました。そういう力づくの時代に、公武合体論で話し合い、武家と公家が仲良くなり、民主的な国内統治をするという考え方、そして外国に対しても夷敵を討つというのではなく、ちゃんと粘り強くロシアやイギリスと交渉をしながら外国の文明も学んでいくべきという、信正公の生き方や哲学は、まさに現代に通じる生き方であると思っております。それらは大河ドラマの素材としてすごくいいものであると思っております。ぜひ、市民運動として盛り上げていきたいと思っております。今日の磐城平城しろあと公園のオープンが、その大きな契機となるというふうに思っております。そういった基本づくり、盛り上げにも、市民の皆様には協力をいただければと思っております。

田仲コーディネーター

ありがとうございます。

安藤信正公の大河ドラマということで盛り上がっていくのでしょうか。

大河ドラマ化の前に、私、ぜひしていただきたい事業があります。

安藤家、安藤信正公もしくは平藩、いわきの歴史に関する調査研究というのが必要不可欠だと思うのです。

内田市長

全くその通りだと思います。

是非田仲先生にはその中核になっていただきたいと考えています。

田仲コーディネーター

仲間達と一緒に古文書を読みますので。

これを機に磐城平城の歴史のみならず、いわきの歴史を深化していくような動きになっていければいいなというふうに願っております。ありがとうございます。

柴橋市長、岐阜城ではすでに様々な取り組みが行われているのですけれども、
今後はどのような事業を展開される予定か教えていただけますでしょうか。

岐阜城・岐阜公園の今後について



⑮

柴橋市長

はい(⑮)。まず「史跡岐阜城跡整備基本計画」という計画を、私は2021年の12月に作りまして、これに基づいて色々な事業を実施しています。

そもそも、私、楽しそうに話すと思うのですが、大学は日本史学研究室に所属しまして、サークルは考古学研究会でした。なんて言いますか歴史が大好きで、今も色々なところに歴史が好きな市民の方と調査に独自で行ったり、自分なりに色々な本を読んで歴史のまさに研究をしたりというところですよ。

岐阜城というのは、金華山の山上に天守閣がありますけれども、岐阜市民の皆様も、ついこの間までは岐阜城の山上部の天守を指さして、「岐阜城はあれです」というふうに言っていました。しかし、「違います

よ」ということをこの数年ずっと言ってきました。要は、あれは、本丸というか、その主郭部分で、天守があるだけで、その山麓にも信長公、斎藤道三公の時もですが、当然、居館があり、様々な城下も広がっていたわけです。

この山麓から山頂まで含めて一帯が岐阜城ですと。城の概念や市民の皆様の考え方そのものを変えていただくということをずっとやってきました。

そのためにも、発掘調査は非常に大事で、山麓部分はすでに私の前の市長の時代あるいはその前の市長の時代に行われていますので、私は山上部の発掘調査を、基本計画に基づいてやりました。

樹木管理ということで一部木も順次切らせていただいております。

最近の城跡の整備っていうのは、この樹木管理が非常に大事で、この樹木が繁茂していることによってせっかくの遺構が埋もれてしまっている。岐阜城も、石垣が埋もれていたり、見えなくなっていたりということがありましたので、これは林野庁の山なのですが、しっかりと計画を出して、しかも一気にやるって事ではなく、順次発掘調査をして木を切らせていただいております。

また、石垣などが壊れてしまわないように、しっかりと計画を出して、お認めいただくということをしています。

それで、今後なのですが、調査をしながら山麓部については、例えば、信長公の庭園の調査も随分進みましたので、こういったものを市民の皆様やお客様に見ていただくには…ということで、庭園の整備を行ってきたいということを、今、計画しております。

また合わせて、岐阜市歴史博物館というのが山麓にあるのですが、こちらを今、「戦国時代の展示」をテーマにリニューアル工事中で、秋にはオープンする予定です。

また、あの山上部の天守も、耐震補強工事をやるということで、これに合わせて天守の色々な展示についても、リニューアルをするということで、しっかりと発掘調査をしながら、本物の石垣を見せながら、山上部の沿道の登山道の再整備などもやりながら、こういったソフトの部分の展示などもリニューアルするということを同時に実施しております。

最後にビジターセンターっていうのはちょっと左下に赤字で書いてありますが、やはりたくさん発掘調査を行ってまいりましたので、その発掘をした成果として様々なものも出てきております。

ですから、このようなものは歴史博物館の中でずっと保存するだけではなくて、このビジターセンターを岐阜城の見学の拠点として岐阜城の価値というものはどういうものかというのを伝えながら、発掘の成果なども、お客様にお見せをして、岐阜城の本物に触れていただくということで、非常に重層的にこの岐阜城ってものを広く捉えて、一つ一つのコンテンツも整備をしながらやっていくということで、ぜひ皆様方にも今後あと数年かかりますが、完成の暁には足をお運びいただければと思います。

田仲コーディネーター

本物志向という言葉が出ましたが、いわきでも本物志向で VR など組み合わせでやっていけることを願っております。

最後に千田先生、千田先生は日本各地のお城のこと、城下町のことをたくさんの事例をご存知ですが、磐城平城、そして、城下町も含めて、今後こういった活用方法があるのかご教示ください。

千田先生

はい、ありがとうございます。

今日皆様の議論をお伺いしながら、これから磐城平城、ますますこれは楽しみだなというふうに思いました。

2つのことを今日は提案したいというふうに思います。

1つは、今日オープンいたしました磐城平城しろあと公園。これをどう活用していくかということです。

それから、素晴らしい公園の整備が実現しましたので、この磐城平城のこの成果っていうのを「オールいわき市」で広げていくという、やはり2つのことが必要ではないかというふうに思いました。

まず、磐城平城しろあと公園の方ですが、最初のお話でもさせていただきましたように、素晴らしいVRなどができました。ですが、例えば御殿の内部バージョンを見たいと思います。

これは先ほど、田仲先生から、ご指摘がありましたように、しっかりと安藤家の資料を調べていくことで、あの立派な御殿がどのように江戸時代に使われていたのか、ということが研究で分かってきます。そうすると、使っていた様子をVRの中で、今は建物の空間しかありませんが、中で侍たちがあるいは、お殿様がこのように使っていたということが勉強できる、理解できる。そのようなことでバージョンアップをしていたことができるのではないかというふうに思いました。

その事は、市内の様々な学校教育との連携の場として、今日オープンした磐城平城しろあと公園が、もっと色々な意味で活用していただけるということに繋がってくると思います。

そして何より、今回の磐城平城しろあと公園は、発掘調査で見つかりました、本丸の御殿の本物の跡はしっかり保存しながら施設を作っていく、公園として活用できるようにするという大変優れた取り組みだったと思います。

しかし、その根底には、せっかくきれいに整備された磐城平城しろあと公園を、様々な市民が使える活用 の場として、日常的に使っていくことが可能なそのような魅力的な場所であるというふうにしていきたいと思 います。

最近 は、公園で色々な制限が多いのですが、皆がそれぞれに楽しんでいただける、あるいは色々な活動の成果を発表できる場であってほしいというふうに思いました。

それで、もう1つ、磐城平城しろあと公園のこれからの活用整備ということについて、お願いしたいことがあります。今日、完成しました、磐城平城しろあと公園には、極めて大きな問題があります。

それは、今の磐城平城しろあと公園は、視覚に障がいを持つ方に対しては、ほぼ全ての歴史情報を伝えることができないというか、市内には視覚の障がいをお持ちの方が誰もいないというのか、という前提で整備がされました。これは極めて遺憾です。

素晴らしいVRであっても、視覚障がいがあれば見ることはできません。立体模型はケースに入っています。触ることができません。

つまり、視覚障がいがあれば、どれほどお金をかけて素晴らしい模型があっても、それは無いのと一緒です。

つまり、今日オープンした磐城平城しろあと公園は、視覚に障がいを持っておられる方には、ウェルカムではないという状態です。これは改善する必要があります。何をするか。例えば、世界のこのような城跡の整備や博物館では、触知模型って言いますが、触って理解する模型です。そこには展示や認定ガイドがセットされています。そのようなことは、今の技術であれば、多額の費用をかけずとも、例えば、素晴らしい模型やVRの元のデジタルデータがありますから、3Dプリンターなどで、それほど多額の費用をかけなくても非常に効果的な触知模型が作れます。3Dプリンターであれば、施設の中に置くだけではなくて、外に置くこともできます。そのような形で、全ての人に磐城平城の魅力を広げていくのが良いですね。

そういった取り組みは、是非、今日で完成して「これでできた」ということではなくて、これからもっとみんなに広げていくという取り組みを続けていただきたいというふうに思います。

で、もう一つ磐城平城のこの素晴らしさを「オールいわき市」に広げていくということで言いますと、今日最初のお話の中で、市内には大変魅力的な城跡がたくさんあるということを話しました。

それらは、地域の方にとってみれば「まああるよ」とか「家の裏の藪」だよということかもしれませんが、全国のお城ファンからすると、行ってみたいとても魅力的なところなのです。ですから市内にある、いろい

ろな中世の城跡。これは実は、市内の各地域の歴史的な個性を象徴する文化財・歴史の証人でありますので、実は、そのようなお城がいわき市内にはたくさんあって、戦国の時代の中で、ついに近世を迎えて、地域の1つの中心の城として磐城平城になっています。それで、それぞれの地域にあった中世の城というのは、基本的には排除されていくということです。そのような歴史を物語っています。

ですから、それぞれの中世のお城、近世の磐城平城というのを合わせて生かしていくということで、まさに今日の現代のいわき市にはこういう魅力的な歴史の組み合わせでできた町である、そのようなことを示す取り組みになるというふうに思います。

つまり、中世の頃は平だけが城下町ではなくて、実は、いわき市内のほとんどの地区は小さなお城がある、小さな城下町で、「城下町の集合だった」ということになるわけです。

大規模な調査をして、大規模な公園化にするとということも一案ではありますが、やはりその前に田仲先生からご指摘ありました、調査研究が大事です。それで、いわき市の城跡探検ツアーを実施すると良いと思います。これはいわき市の皆様でお城好きな方、本日もこれほどたくさんの方にお集まりいただきました。

仲間がたくさんいます。

それと、全国には少し、藪にとでも入りたがっているファンがたくさんいます。このような方々と一緒に全国の方がいわきに来ていただいて、それぞれのお城をみんなで探検して、「なるほどね！このお城はね！横堀があるぞ！櫓台にちがいない」…と言って、城跡になってしまっていて簡単には、これはなんだということがすぐには説明できないものは、みんなで考えなきゃいけないということを利用して、歴史の謎を読み解く。そのような魅力的な市内の歴史を発見するというのをみんなで取り組んだら、すごく楽しいのではないかというふうに思います。

そうしますと、平城で平地区が盛り上がっているな、うちは関係ないぞ…ではなくて、うちにも実はこんなとても魅力的なお城があるぞと言うので市内みんなで盛り上がっていただけるのではないかというふうに思います。

最後に、磐城平城しろあと公園にせよ、オールいわき市のお城を盛り上げていこうということに関しても、やっぱり史実ですね。歴史をしっかりと研究してそれに基づいて、生かしていくというのがとても大事だというふうに思います。

行政は時々大変危ないことをします。史実とは違って、見たい歴史とか語りたい歴史。それは、観光にとってもプラスになるからということで、史実ではない歴史をどんどん売っていき、整備をしてしまうということがあります。

ですから、そういうことはやっぱり長い目で見ると短期的にはそれはバレなくてうまくいったように見えることがあるかもしれませんが、長い目で見れば、嘘は嘘です。それは長続きしません。やっぱりそうならないためには史実をしっかりと調査をして、それに基づいて活用していく・整備をしていくということが、何をやるにも一番の根本になるのだ、というふうに思います。

いずれにしても、今日、議論の中でも明らかになりましたように、磐城平城っていうのはとても魅力的なお城です。この素晴らしい城跡が市民の皆様に愛していただいて色々な形で活用していただいて、そしていわきはこんなに魅力的なまちだということを全国の方も実感できる、それから市民の方が自慢していただける場所になったらというふうに願ってそのようにしていただけたらいいなと思います。

以上でございます。

田仲コーディネーター

大変貴重なご指摘を頂戴いたしました。障がいのある方でも触れられるお城づくりということですね。あといわきには平城だけではなくて中世のお城は、今日会場にいらっしゃる中山雅弘さんの研究によりますと、いわきには中世に造られたお城が200ヶ所以上あったと言われています。そういったところを繋いでい

きますと、今、千田先生がおっしゃった通り、城跡探検隊楽しそうですね。歴史を深堀できる、色々なことができるのではないかと考えております。

<質疑応答>

会場からの質問

矢野と申します。千田先生、今日は楽しい記念講演をしていただき本当にありがとうございました。千田先生に質問です。城郭考古学者などの考古学者になるためには中高生からどのような勉強すればいいですか。

千田先生

ありがとうございます。

私自身は、中学1年生からお城が好きになってこうなってしまったのですが、反省があります。中学1年生の頃から藪に入って、「いい堀があるね」と言ってですね。学校って必ず学期終わりに 三者面談とかあったりするんですけど、

「千田君は、お城はいいから中学生の勉強しよう」と言われ続けて、中学校・高校と過ごしてきたのですが、学校の勉強は結構大事だということが後になって分かりました。お城もいいけど学校の勉強もしましょう。

やっぱり今日整備ができました磐城平城のように、実際の城跡を、なるべく無理のないところで尋ねていただいて、自分自身で色々なお城を見る。見て色々なことを考える。そういうことをしていただくと良いのではないかっていうふうに思います。

現状で言いますと、博物館の学芸員とか今、歴史的にはとてもなりやすい時代が到来しています。一生懸命勉強するとそういった専門の仕事にも就くことができるというふうに思いますので、ぜひ頑張ってください。よろしくお願いします。

質問者

ありがとうございました。

田仲コーディネーター

最後に、いわき市民の皆様に向けて何かメッセージを頂戴できたらいいなと思います。お願いいたします。

千田先生

こんなに沢山の方がお出ましくださり、とても幸せですね。

本当に素晴らしい磐城平城しろあと公園ができました。もちろん改善してほしいところはあるのですが、町の真ん中、平の真ん中ですが、これほど素晴らしい歴史的な空間というのがよみがえったというのは、これはやはりいわき市は文化度が高いですよ。誇りに思ってください。

今日、これほどいわき市民を代表する、知性派の方に集まっていただきましたけども、今日せっかくこんな素晴らしい超高度な催し物があるのに来なかった市民の方々…

これすごい人気のイベントでございましたので3倍ぐらいですか？来たかったけど、涙を飲んでおられる方もいます。今日ここにきた、もう勝ち抜かれた方は、運の強い方ではあるのです。

今日この場に来られなかった方含めて市民の方に、「実はすごいものがあそこにできたのよ」ということ

をぜひ近所の方にお伝えいただきたいと思いますし、いわき市ってどんな所？といわき市民以外の方に聞かれた時も、「磐城平城っていうお城があつてね」ということからまず始めていただけたらありがたいなというふうに思っております。

それから、(平)本町(通り)が長方形街区と短冊形地割なのだよ、など、自慢していただくところがたくさんありますので、やはりいわきの市民の方が、いわき市はすごい！こんな自慢できるものが沢山ある街だと、すごく誇りを持てる、そのような下に、磐城平城しろあと公園それから城下の歴史を伝える町並み、改めて「これすごいんだ」ということを理解して発信していただくということが、やはりこれからのいわき市にとって、とても重要ではないかというふうに思います。

今日、お話をお伺いしましたら市役所としては、ますます色々なことをしていこうというふうに、内田市長さんがおっしゃっておられました。

あとは市民の方が応援をしていただいて、ますます素敵ないわき市になっていくというのを楽しみにしています。

ぜひ皆様の力でいい城跡になりますように、よろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。